

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (45)



～ ゲームの秘密を勉強に生かそう ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

突然ですが、子どもが夢中になるゲームに勉強を好きになるヒントがあるとしたら、その秘密を知りたいと思いませんか。博報堂生活者エクスペンスクリエイティブ統合ディレクターの酒井亮祐氏は、「ゲームには成長を実感させる仕掛けがあり、それがユーザーのモチベーションを喚起する」と言っています。

例えば、最終的なゴールが「魔王を倒す」のようなゲームには、その道中に数々のミッションが与えられ、それを一つ一つクリアしていくたびに、効果的な画像とインパクトのある音楽が流れ、グレードアップするアイテム等が手に入るようになっていきます。つまり、ゲームの中の主人公を通して、ミッションをクリアしながら確実に成長していることが実感できるようになっているのです。また、ゲームでは、最初の「成功体験」を重視しているため、ゲームのはじめに出てくる敵は、たいていあっさりと倒すことができるようになっています。「勝つ」という面白さを一度体験すると、その勝利を再び味わいたくなるしくみになっているのです。

これを勉強法に例えると、①子どもにとって魅力的な大きな目標を立てる。②その目標に近づくための小さなミッション（目標）を立てる。③成長を実感する褒美をその都度与える。というように変換することができます。この3つのスパンの中でとても重要なことは、子どもに「勉強の成功体験」をどう味わわせていくかということです。

具体的に説明しますと、上記の①「子どもにとって魅力的な大きな目標」とは、夢や得意なもの、又は大好きなものということになります。子どもに「将来何になりたい？」などと尋ねると、子どもは自分なりに今興味を持っているあこがれの職業のことを語りはじめます。主体的に勉強をする子を育てるためには「自分のことは自分で決める」ことがとても大切です。強制ではなく「自分の夢を叶えるために勉強する」という自律的な動機を大切にしたいですね。それに子どもの夢は、変わりやすく多岐にわたるものです。私たち親は、子どもの勉強が夢実現へとつながり、夢が叶ったときのワクワク感を子どもと一緒に想像することを楽しんでいきたいものです。

次に、②の「小さなミッション（目標）」についてです。「学年の漢字を全部覚える」「苦手な割り算を克服する」「定期テストで上位に入る」等、個人の目標はそれぞれですが、やる気を引き出し「成功体験」を味わうには、大きすぎず簡単すぎない、少し頑張れば達成できるくらいの目標を立てるのがコツです。子どもが挑戦しやすい目標を一緒に考え、日頃の頑張りに声をかけてあげましょう。ミッションをクリアできれば、確実に達成感を得られるのでやる気が高まっていくことでしょう。

最後に、③の「成長を実感する褒美」についてです。子どもは親が大好きです。大好きな親にほめられたらそれだけで嬉しいものです。ほめるべきところは積極的にほめてあげましょう。学校での学習やおけいこ事等の一つ一つは、子どもにとっての小さなミッションです。そのミッションを達成したら夕食で乾杯するなど、家族みんなで喜びを共有するのはいかがでしょうか。親から見ると小さなことであっても、子どもにとっては大きな一歩です。成長を家族から認めてもらえることで大きな「成功体験」につながります。きっと、ゲームの刺激に負けないほどの勇気づけになることでしょう。

石垣市勇気づけの教育では、行動したことを認める「行動承認」や一歩成長したことを認める「成長承認」を大切にしています。「よくトライしたね。」「毎日続けてがんばっているね。」と一緒に喜び合うだけでいいのです。子どもは、チャレンジしたことや成長するたびにほめてもらえるので、その快感を味わいたくて次のミッションに繰り返しチャレンジしていきます。その流れがいつの間にか習慣化して、勉強を楽しむ好循環が生まれるというわけです。皆さんもぜひ、この好循環の勇気づけを実践してみませんか。